

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600891		
法人名	株式会社 無限倶楽部		
事業所名	グループホーム幸福の里あすか		
所在地	苫小牧市錦岡647-14		
自己評価作成日	平成30年3月2日	評価結果市町村受理日	平成30年5月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigvosvoCd=0173600891-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシェ研究所
所在地	札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成30年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりに合った利用者主体の支援、サービスの提供を心がけ、家族、そして地域のつながりを大切に考え、安心・安全な生活を提供するよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム幸福の里あすかは、苫小牧市郊外にあり、窓から太平洋を望むことのできる2ユニットの事業所です。
町内会活動や学校の実習を受け入れるなど、住民との日常的な行き来があり、地域と利用者がつながっています。設立から時間を掛け、地域との交流を広げています。また、行政や市内の福祉専門職などと協力して、認知症の啓蒙活動を行っています。事業所では、利用者の「その人らしさ」を大切にケアを実践しています。本人の力を引き出し、生活を主体的に送ることができるよう、利用者の意向を受け止めています。利用者を支える職員同士もお互いの個性と特技を発揮できるよう、系列の事業所と合同の研修や男女別の交流会の開催などを行っています。
職員は理念に沿ったケアが行えるように、研鑽の機会やチームとしての話し合いの場を持ち、他事業所の同じ立場の職員と悩みや喜びを分かちあう機会を持つことなどを通じて、自信と誇りを持って職務に当たっています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームのケア理念、各ユニットごとのケア理念を見える場所に貼り確認し、実践につなげるようにしている	事業所の理念を踏まえ、ユニットごとにケア理念を定めています。利用者の支援の方向性を検討する際に、理念に立ち返っています。会議はユニットごとに行っており、理念の共有と実践につなげています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事やボランティア等、定期的に交流を図るようにしている	地域の婦人部と一緒に雑巾を作り、小学校へ寄付を続けています。小学生が利用者と将棋で対戦するなど、定期的に交流しています。実習などをきっかけに遊びに訪れる子どももあり、地域とのつながりを築いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学生や中学生にサポーター養成講座を設けたり、町内会の行事等に参加。交流の場にて理解を得るようにしている			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議においての意見や、その他アンケートなどの意見をサービス向上に活かせるように努めている	今年度は運営推進会議を4回実施しています。家族にも事業所便りで参加を呼びかけ、議事録も送付しています。職員の名前がわからないなどの意見を受け、改善を図っています。また、事業所の取組を伝え、地域との連携を行っています。	運営推進会議は奇数月に実施する計画となっていました。開催日も決めておくことで参加案内にも掲載することができます。参加者を拡大していくためにも年間スケジュールを立てることが期待されます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席、実地指導の際に現状報告や意見・アドバイス等を頂いている	認知症のサポーター養成講座の講師として、市民に広く認知症を知ってもらおう活動や、同業者のネットワークを通じて市と連携しています。事業所から積極的に働きかけ、高齢になっても安心して暮らせる地域作りに取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、勉強会等を通じて身体拘束への正しい理解を学び、実践できるようにしている	身体拘束に関するマニュアルがあり、職員はスピーチロックを含め、身体拘束となる行為について学んでいます。利用者の自由な生活を支えるため、転倒などのリスクに対応し、業務の流れを見直したり、介護計画にも安全な介護ができるよう記載しています。	事業所は、身体拘束の排除に関する指針とマニュアルの見直しや、委員会の設置と定期的な開催を予定しています。職員の定期的な学習機会を作ると共に、仕組みの整備に取り組んでいくことが期待されます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中やカンファレンス等で職員同士で注意や話し合いを行い防止に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会、研修等で学ぶ機会はあるが、今現在は活用出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談や文書による説明、同意を得ています。疑問点にはその都度お答えしています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や手紙・電話等で近況報告し、要望等をお聞きし記録に残しています	事業所から家族と一緒に利用者を支えたいというメッセージを伝え、家族の意見をくみ取っています。意見等は専用の書類に記録し、改善に取り組んでいます。家族アンケートを実施し、結果を運営推進会議でも取り上げています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別な場は設けてはいないが、ミーティング時や個人的に話し、意見や提案を聞くようにしている	会議などで、職員のシフト調整や看取り支援についての考えなどを確認しています。職員の意見や提案はユニット全体で共有しています。また、職員からの個別の相談にも応じ、休みの確保や働き甲斐など、ワークライフバランスにも配慮するよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の参加、資格取得の支援などがあり意識を高め、向上心を持って働けるようにしています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修会への参加や事業所内の勉強会、また同業者との合同勉強会を行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者や他職種の方々との情報交換、交流を図るよう促し取り組む予定		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランを作成する際、細かいアセスメントやセンター方式のシートを活用し、早く利用者との信頼関係が築けるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時に家族の要望をお聞きし、面会時にも情報交換等を行っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの情報を基にケアプランを立て、支援、サービス提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の望む暮らしを把握し、共に生活する者同士の関係を築くよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的な情報提供や行事への参加、定期的な面会等をお願いしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人等の馴染みの方の手紙や、電話の支援や外出支援をしています	入居前からの知人の来訪や、知人との定期的な外出などを家族と連携しながら支援しています。馴染みの店への買い物なども、希望を受けて一緒に出掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入ったり、座る位置、過ごす場所等を考えたり、互いの居室への訪問等も支援しています		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者でも行事等の参加が出来るようにしています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動をアセスメントし、会議で検討しています。またその時の身体状況も考慮し、満足して頂けるように努めています	センター方式のアセスメントを活用し、利用者の理解に努めています。表情を含め、言葉の意味を考察するなど、利用者の不安や思いに寄り添っています。必要な場合は職員全員で集中的な対応を行い、不安の原因を探り、安心できる環境を整えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際し、ご本人の生活歴やご家族の話等から把握し、文書で職員がいつでも確認できるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方は日々記録に残し、申し送り等情報を共有できるようにしています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでモニタリング結果を基に話し合い、ケアプランの見直しを行っています	介護計画作成の一連のプロセスと目的について、職員全員が意識し、モニタリングや計画作成に当たっています。利用者と家族の意向を踏まえ、介護するという意識ではなく、支援するという意識を持ち、利用者が主役となって、生き活きと生活できるよう計画を立てています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のアセスメントシート、申し送りや特別な事があった場合も文書にて確認できるようにしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援の送迎や通院等の対応をしています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のボランティア活動や近隣の学生達の訪問等で交流を図っています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の情報を提供し、かかりつけ医と連携しているようにしています	入居前からのかかりつけ医の受診を継続して受けることができます。事業所の職員が同行していますが、複数の通院先がある場合は、家族の協力も得ています。家族が対応する場合は、利用者の様子を書面にし、医師からの連絡も文章でもらうなど、職員は訪問看護とも医療の正確な情報を共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪看ラウンド時には文書や口頭で状態を伝え、アドバイスを頂いています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と連携し情報交換しています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	書面にて同意を頂き、話し合いを繰り返します。また、かかりつけ医や訪看と連携しています	終末期をどこで、どのように過ごすかについて、利用者と家族の希望を聞いています。職員の研修も行い、看取りの後に振り返りのカンファレンスを行い、職員一人ひとりの思いもチームとして受け止めています。経験を踏まえ、研修や介護技術の向上の取組につなげています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルの作成。勉強会を行い認識を統一しています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マップを作成したり、消防立ち合いの避難訓練。運営推進会議のメンバーの方々にも参加頂き助言を頂いています	年2回の避難訓練には職員が全員参加しています。火災以外の防災のマニュアルも作成しています。事業所は海に近い場所にありますが、市内の内陸側にある連携グループホームへの避難も可能となっています。	避難訓練の実施や、マニュアルの作成、スマホを活用した連絡などを実践しています。しかし、事業所が海に近いことや、BCP(事業継続計画)の策定が求められていることから、非常時の想定と対応策を充実させていくことが期待されます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた声掛けを心がけております。居室を訪問する際にはノックをし、同意を得てから入室するようにしています	職員が、利用者にどう寄り添うか、できることを奪わないケアとはどのような支援かを考えています。また、認知症を学び、利用者の人となりを理解し、個別の対応を行っています。居室に鍵をつけたいという希望にも応え、プライベートな時間や空間を尊重しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを話してくれるように環境を整え、また職員の方からも声掛けをし引き出すように努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけているが、業務優先になってしまう場面もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容に来て頂いたり、服などはご自分で選んで頂くよう支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けを一緒にいき、誕生会や行事の時などは利用者の好みの食事を用意します	旬の食材を使った献立や、利用者のリクエストにも応えています。ウッドデッキで焼き魚を食べたり、漬物を漬けるなど利用者が参加する機会や、得意なことや役割を発揮する場ともなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートを使い水分・食事量を把握。体調等を考慮し水分量等の調整もしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な利用者は介助にて歯磨き、食べ残しのチェックをし、自立している方には声掛けをしています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェックシートを使用し把握。また状態により声掛けによる誘導、時間帯によってはパット、ポータブルトイレを使用しています	トイレでの排泄ができるよう、時間の間隔や利用者の様子から声掛けをしています。歩行が難しくなっても、トイレに座ってもらえるよう、余裕を持った誘導や夜間のポータブルトイレ使用などの工夫をしています。利用者に合わせておむつやパッドの選定も行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がなければ下剤の服用や水分摂取などで予防している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴はご本人の希望を聞き夜間でも入れるよう対応。ご本人の希望で入らない時は日にちをずらしたり声掛けの仕方を工夫しています	朝から浴槽に湯を張り、利用者が希望した時に入浴できるようにしています。夕食後の入浴など、入居前からの習慣に合わせています。入浴後の冷たい飲み物や、利用者ごとに湯を張り替えるなど、利用者が気持ちよく入浴できるよう個別に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の希望を聞き対応しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の個人ファイルがありいつでも確認しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って頂けるように支援。また得意な事を活かせる仕事をして頂けるようにしています		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物等の希望があれば支援するようにし、また季節によっては散歩等の支援をしています	事業所から見える海まで毎日散歩に出掛けています。また、事業所の買い物や市内で催し物などがある場合は、利用者も一緒に出掛けています。広いウッドデッキを、屋外での食事や気分転換に活用しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能な方は現金を持って頂いています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ等をしています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計等をチェックし適切な温度管理をしています。また冬期は加湿器を設置、季節ごとに飾りつけをし季節感を出すようにしています	ソファや小上がりのスペースなど、利用者が思い思いに過ごすことができるようにしています。温湿度はチェック表で定期的に確認し、掃除の際に換気も行っています。居間にはベッドもあるため、看取りの場合も他の利用者の気配を感じながら過ごすことができるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮し、座る位置を変えたりダイニングや小上がり・ベンチ等、本人の過ごしたい場所を選んで頂いています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人と家族にお任せし、望む環境を作って頂いています	居室はプライベートスペースとして、職員であっても勝手に立ち入らないようにしています。利用者の動線を考慮し、安全に配慮した間取りを提案しています。こたつなどを持ち込み、入居前の習慣が継続できるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、安全な環境作りに努めています		